

1 平成28年度 墨田区学習状況調査速報値

平成28年10月11日
墨田区立竪川中学校

教科	観 点	墨田区学習状況調査結果						全国学力・学習状況調査	
		第1学年		第2学年		第3学年		3年A	3年B
		目標値	本校平均正答率 全国平均正答率	目標値	本校平均正答率 全国平均正答率	目標値	本校平均正答率 全国平均正答率	本校平均正答率	本校平均正答率
国語	国語への 関心・意欲・態度	66.7	68.6 68.3	72.2	78.0 75.5	63.9	68.8 66.1		58.2 58.3
	話す・聞く能力	70.0	73.9 74.3	70.6	78.1 74.7	68.9	74.6 75.7	80.3 78.9	
	書く能力	59.6	59.2 59.2	70.7	76.1 73.9	58.3	61.5 56.4	78.2 73.7	58.2 58.3
	読む能力	54.5	58.1 55.9	61.4	70.0 66.3	58.3	62.4 63.5	82.7 78.6	66.7 66.5
	言語についての 知識・理解・技能	66.6	66.8 68.8	71.2	77.2 75.2	65.4	64.0 69.7	71.4 73.9	
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度	51.7	46.9 50.9	53.0	52.0 54.5	52.5	49.5 53.0		
	社会的な 思考・判断・表現	49.8	45.4 50.8	53.5	56.1 54.3	50.4	51.5 51.2		
	資料活用の技能	53.9	50.4 53.6	56.1	58.0 56.7	54.4	50.9 54.0		
	社会的事象についての 知識・理解	56.4	50.3 55.4	55.7	59.0 56.2	57.0	53.6 57.0		
数学	数学への 関心・意欲・態度	67.1	70.3 68.9	58.1	61.7 59.1	46.7	56.0 46.2		
	数学的な見方や考え方	65.7	69.7 67.4	55.5	59.0 56.2	49.3	58.1 49.2		41.7 38.9
	数学的な技能	74.5	74.9 75.0	61.3	66.2 61.5	60.5	72.0 61.2	74.6 66.9	66.8 58.5
	数量や図形など についての知識・理解	65.4	63.1 65.4	57.3	62.3 58.1	58.2	71.1 59.3	66.8 56.8	
理科	自然事象への 関心・意欲・態度	64.7	61.3 68.9	55.3	42.2 49.1	52.8	40.2 50.6		
	科学的な 思考・表現	64.9	61.2 68.1	55.0	44.3 51.3	52.2	36.0 49.3		
	観察・実験の技能	67.9	60.2 71.5	48.9	23.9 38.9	50.0	30.1 46.6		
	自然事象について の知識・理解	59.4	50.8 59.0	57.9	44.4 54.0	58.6	46.6 58.0		
英語	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度			62.0	59.2 63.0	62.7	64.0 64.0		
	外国語表現の能力			48.8	39.0 49.6	47.8	46.0 45.5		
	外国語理解の能力			65.8	65.5 68.1	65.0	67.9 67.5		
	言語や文化についての 知識・理解			66.7	53.4 66.8	60.4	57.2 60.5		

- 1) 目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した生徒の割合を示したもの。観点ごとの目標値は、設問ごとに設定された目標値をもとに算出されている。
- 2) 平均正答率：正答率の平均値のこと。観点における学年のデータとして用いる際は、その観点の全設問における学年集団の正答率の平均値。なお、正答率を算出するうえで、記述・論述式問題の準正答（部分点）については、正答数を0.5として換算している。

2 区調査結果の分析

<p>○良い点 全学年、国語・数学において、目標値や全国平均値を上回っている。 特に、第3学年の数学は、「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」は、目標値に対して12ポイント以上の数値である。 第2学年の国語は、すべての観点において6～9ポイント目標値を上回る結果となった。 第2学年の社会は、3つの観点で目標値と全国平均を超えている。</p> <p>●課題点 第2、第3学年の理科は、すべての観点が目標値に届かず、苦手な生徒が多い。第3学年理科の観点「観察・実験の技能」を意識した指導が必要である。また、2学年の英語の観点「表現の能力」にも課題が見られる。</p> <p>◎改善の方向性 理科においては、科学における最新のニュースや身近な情報を紹介し、ICTを活用した視覚に訴える授業や実体験の学習を増やす。また、夏休みの課題や学習教室を通して興味・関心をもたせる。英語においては、言語活動の場を多く設定し、コミュニケーション能力の向上に努める。特に、単語や文を正しく書くことの能力を向上させるために、表現（書くこと）を意識した授業の工夫が必要である。</p>
--

※今後、調査結果の詳細な分析を行い、「学力向上を図るための全体計画」（学校としての授業改善プラン）を10月下旬（予定）までに公表いたします。